

項目	説明	
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	免疫チェックポイント阻害剤による重篤な間質性肺炎発症機序の解明
	研究対象者	2010 年 1 月から 2025 年 4 月の間に、当センターの研究に関する包括同意を書面で頂いている患者さんの内、神奈川県立がんセンターで肺癌の切除手術をうけ、後に免疫チェックポイント阻害剤による治療を受けた患者さん
	研究目的	免疫チェックポイント阻害剤によるがんの治療を受ける患者さんの一部に、間質性肺炎と呼ばれる副作用が出現し、重篤な場合は患者さんが亡くなったり、また、治療が効果を発揮しているのに、治療を中断、中止してくてはならない場合があります。どの様な患者さんに、この副作用が出現するのかを事前に予想することができれば、この薬による治療の回避や、重篤な副作用を早期の介入で低減する治療が可能となります。この研究では、この副作用出現の原因解明を目的としています。
	研究方法	当センターで肺癌の切除手術を受け、後に免疫チェックポイント阻害剤による治療を受けた患者さんから、間質性肺炎を発症した患者さん、しなかった患者さんを選んで、手術で切除された肺の、がんではない部分から DNA や RNA を抽出して遺伝子変異、遺伝子発現の比較を行います。また、病理検体を使って、見つかった相違点に関連するタンパク質の発現を解析します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できない研究用の番号（識別コード）で管理し研究します。個人と識別コードを照合する対応表を作成しますが、パスワードロックと保管場所を施錠して厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 8 月 2 5 日 ～ 西 暦 2 0 2 8 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[] 総長が研究実施を許可した日 [☒] 西暦 2025 年9 月 20 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[☒] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [X] 病理検体(病理診断が完了して残っているパラフィンブロック)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[☒] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[] 生年月日、[X] 性別、[X] 既往歴、[X] 併存疾患、[] 外来日・入院日・退院日、[X] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[] ゲノムデータ、[] 看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	(研究代表・責任者) 臨床研究所・がん分子病態学部・笠島 理加
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	神奈川県立がんセンター・臨床研究所がん分子病態学部・笠島理加 TEL 045-520-2222 利用停止のお申し出は 2025 年 12 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	